



東中だより

夢を追え、自らを高めよ
—学べ・磨け・輝け—

10月号

さいたま市立東浦和中学校

〒336-0932 さいたま市緑区中尾 1207-1

☎ 048-873-4141

令和8年10月1日 発行

「読書の秋」

校長 ^{たかく まさゆき} 高久 正行

「秋の長雨(あきのながさめ)」という言葉があります。これは、夏の終わりに秋にかけて、数日～長期間にわたり曇りや雨の天気がぐずつく現象及びその時期のことを指すそうです。調べてみると、「秋雨(あきさめ)」「秋霖(しゅうりん)」「秋入梅・秋霰雨(あきつり)」「すすき梅雨」「秋時雨(あきしぐれ)」「御山洗(おやまあらい)」等が、秋の雨を表す言葉としてあることを知りました。雨の降る季節というと、梅雨が浮かびますが、実は、東日本は初夏よりも秋のほうが雨の季節といえるという記事を見ました。降水量の平年値を見ても、西日本は初夏のほうが秋よりも雨量が多い傾向にあるのに対し、東日本は秋のほうが初夏よりも降水量が多い傾向にあるのだそうです。このように、秋の雨は昔から日本の生活と縁のあるものなのだと思います。しかしながら、今年の8月中旬頃から今に至るまでの雨が降る日数の多さは、過去を振り返っても記憶にないくらいです。場所によっては、かなりの被害に見舞われていることが報道されています。これ以上被害が拡大しないことを望みます。その一方で、秋に見られる、空気が澄んで空が抜けるように青く晴れ渡った気象現象・天候のことを表す「秋晴れ」という言葉もあります。早く気持ちの良い清々しい気持ちにさせてくれる「秋晴れ」が待ち遠しいです。

さて、10月に入り、令和9年度の折り返しを迎えました。9月には、生徒会本部役員立会演説会・選挙が行われました。24日からは市中学校新人体育大会も始まり、学校の中心が3年生から2年生にバトンが受け継がれての活動になります。ぜひ東中の良い流れを継続して欲しいものです。また、今月16日に開催する「合唱祭」に向けて、学校中至る所から歌声が響く季節となりました。赴任して初めての「合唱祭」になるのですが、東中生がどのようなハーモニーを奏でてくれるのか今からとても楽しみです。保護者の皆様におかれましても、ぜひ市文化センターに足を運んでいただければ幸いです。

秋といえば、食欲の秋、芸術の秋、読書の秋、スポーツの秋、行楽の秋…… など、秋と結びつく言葉がたくさんあります。「〇〇の秋」と言われるのは、「気候がちょうどいいから」という理由のようです。その中で、10月27日から読書週間が始まる「読書の秋」に焦点を当ててみます。この読書週間は、

終戦まもない1947年(昭和22)年、まだ戦火の傷痕が至るところに残っているなかで「読書の力によって、平和な文化国家を作ろう」という決意のもと、出版社・取次会社・書店と公共図書館、そして新聞・放送のマスコミ機関も加わって、11月17日から、第1回「読書週間」が開催されました。そのときの反響はすばらしく、翌年の第2回からは期間も10月27日～11月9日(文化の日を中心にした2週間)と定められ、この運動は全国に広がっていきました。そして「読書週間」は、日本の国民的行事として定着し、日本は世界有数の「本を読む国民の国」になりました。

※「公益社団法人読書推進運動協議会」ホームページから

とのことです。さいたま市は全国でも有数の蔵書数を誇りますが、本校にも14,921冊の蔵書(R7年度末)があり、図書館司書や図書委員を中心に啓発活動に取り組んでいます。4月に実施された全国学力・学習状況調査の質問紙調査(中学3年生対象)の、「学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか(電子書籍の読書も含む。教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)」の質問に対して、30分以上と回答した生徒の割合は12.7%(全国平均18%)でした。多忙な中学生、メディアの多様化等により、読書離れという言葉がささやかれてはいますが、時には紙をめくりながらじっくりと書物に親しみ、想像力を膨らませてみるのはいかかでしょうか。最近はドラマ化されるものも多いので、原作との違いを比較してみるのもおもしろいと思います！

令和8年度全国学力・学習状況調査 児童生徒・保護者向けリーフレット「学びの道しるべ(中学校版)」について

さいたま市教育委員会より、情報提供がありました。右の二次元コードで閲覧することができますのでご活用ください。



令和9年度始業式・終業式等の日程について(お知らせ)

<1学期>

○始業式:令和9年4月8日(木)

○終業式:令和9年7月23日(金)

<2学期>

○始業式:令和9年9月1日(水)

○終業式:令和9年12月24日(金)

<3学期>

○始業式:令和10年1月11日(火)

○終業式:令和10年3月24日(金)